

1. 国立精神・神経医療研究センター（NCNP）病院における認知症診療・介護

基本理念：NCNP は、病院と研究所が協力し、精神疾患、神経疾患、筋疾患および発達障害者の克服を目指した研究開発を行い、その成果をもとに行動先駆的医療を提供するとともに、全国への普及を図る。

認知症診療の位置づけ：

- (1) NCNP 病院は、認知症専用の病棟はなく認知症疾患医療センターではない。
- (2) 精神科、神経内科では、地域の要請もあり認知症疾患の臨床診断と治療方針の策定を中心に外来診療を行っている。精神科では、病院・研究所などで行われている各種臨床研究や治験へのゲートウェイの役割も果たしており、行動障害（BPSD）について臨床研究や治験を行っている。必要に応じて入院での検査、加療も行っている。精神科 4 病棟（計 140 床）の平均在院日数は 40 日以下である。
- (3) 神経内科ではパーキンソン病と関連疾患が重点項目の 1 つであり、レビー小体型認知症を含む認知症を伴う神経症状に対し治療を行っている。幻覚や抑うつなどがある場合は精神科と連携して診療する。前頭側頭型認知症、正常圧水頭症などの診断、加療も行っており、プリオン病の臨床研究拠点でもあるが、アルツハイマー病は多くない。
- (4) 脳神経外科はてんかんの外科治療が中心であるが、正常圧水頭症などの外科治療も行っている。
- (5) 放射線診療部では、専門医が CT、MRI、脳血流 SPECT、MIBG 心交感神経シンチグラムなどの画像診断で臨床支援を行っている。またアミロイド PET、タウ PET などの拠点として臨床研究を進めている。臨床検査部では NCNP を含む 6 つのナショナルセンターのバイオバンク事業、また他の研究などで脳脊髄液など生体材料の収集を進めている。脳磁図、脳波検査と嗅覚検査も実施している。

2. 専門職の教育・育成

- (1) 医師の教育施設の認定：日本精神神経学会、日本神経学会、日本脳神経外科学会、日本認知症学会、日本老年精神医学会などの教育施設、若手医師の専門医・認定医の取得を支援している。
- (2) 診療科ごとの認知症専門教育：精神科では後期研修プログラムに認知症の診断と治療を組み入れ、外来診療や入院診療で指導している。神経内科、脳神経外科も同様。
- (3) 院内カンファレンス：臨床カンファレンスの他、臨床病理カンファレンスが充実しており、嗜銀顆粒性認知症、レビー小体型認知症、進行性核上性麻痺、筋萎縮性側索硬

化症に伴う認知症、前頭側頭葉変性症、プリオン病などが多い。これらの教育には外部講師による研究会も行われている。

3. 地域医療との連携

- (1) 地元である北多摩北部保健医療圏ネットワーク（小平市、東村山市、西東京市、東久留米市、清瀬市）に参加し、医療圏内の住民に認知症を含む適切な医療・保健・福祉サービスを提供すると共に圏内医療機関の連携及び発展、医師その他の医療従事者の能力向上に努めている。北多摩認知症を考える会のメンバーである。
- (2) 医師会などの認知症関連講演会に講師を派遣している。
- (3) 病診連携：もの忘れ外来以外に精神科外来に「連携新患」枠を設け、連携医療機関からの外来診療依頼例を迅速に診察している。放射線診療部による脳画像診断の提供も行っている。
- (4) 北多摩北部医療圏には老人総合病院がなく、認知症治療病棟を有する精神科病院がない。このため NCNP 病院は脳画像を含めた認知症の臨床診断を行える数少ない施設であり、治験や臨床研究にも積極的に活用している。

4. 臨床研究

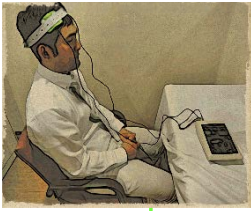
- (1) J-ADNI のコアでもあり、軽度認知障害、または認知症患者に対して、画像臨床研究や認知機能に対する介入研究を行っている。とくに PET、MRI を中心とした画像研究が進んでいる。
- (2) 認知症患者における BPSD に対しても入院および外来で介入研究を行っている。
- (3) 認知症患者や介護者に対する認知行動療法（CBT）の介入研究が本年度より開始し、プログラムの作成及び多施設での試験実施体制を整備中である。
- (4) 地域精神科モデル医療センターの協力を得て、若年性を中心とした認知症患者での社会復帰支援、就労支援の地域での体制づくりの研究を本年度より開始し、基本調査を行っている。
- (5) 神経研究所における基礎研究グループと一体となって認知症疾患克服のために研究を推進している。

5. 近年の医療統計

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
診断	180 名	226 名	307 名	314 名
脳脊髄液保存	60 件	67 件	115 件	45 件

アルツハイマー型認知症

抑うつ気分でお困りの方へ



tDCSを受けている様子

-tDCS(経頭蓋直流電気刺激法) 研究ご協力をお願い-

当研究は倫理委員会の許可を得ています

tDCSとは

頭の表面から脳に弱い電流を流し、脳神経を刺激する方法です。うつ病の治療において効果があったという研究が複数出版されています。アルツハイマー型認知症の方の、抑うつ気分改善の効果が期待されています。

参加できる方

- アルツハイマー型認知症と診断されている方
- 抑うつ症状でお困りの方
- 参加者の日頃の様子を見る方がいる方
- ※全ての条件を満たす必要があります。また全ての条件を満たしている場合でも診察の結果によりご参加いただけない場合があります。

方法

- 週5回、1回30分のtDCSを3週間受けていただきます。
- 入院または外来での施行が可能です。
- 参加中に症状などについて心理検査を行います。

参加のメリット

tDCS及び心理検査にかかる費用は不要です。

参加のデメリット

副作用として、皮膚がかゆくなったり、赤くなったり、気分が上がりにくい人などが見られました。

連絡先

国立精神・神経医療研究センター病院
精神科医師 横井 優磨
042-341-2711



画像臨床研究にご協力ください -軽度もの忘れ-

募集期間：2019年末まで（予定）

参加条件

- 当院院中の患者様
- 50歳以上の方
- 軽度認知障害・アルツハイマー病疑いの方
- 本人もしくは、代諾者の方から文書による同意が得られる方
- 来院時に介護者の同行が可能な方
- 2~3回の来院が可能なる方
- 他の研究に参加されていない方

実施検査

- MRI
- PETCT
- 神経心理学的検査等



- ◆ 上記以外にも参加条件があり、ご参加いただけない場合があります。詳しくは下記までお問い合わせください。
- ◆ 臨床研究参加にあたりご負担を少しでも少なくするため、交通費などの負担に対して謝金が支払われます。

お問い合わせ

国立研究開発法人
国立精神・神経医療研究センター IBIC
電話：042-341-2712（内線：2712）時間：平日10:00-16:00

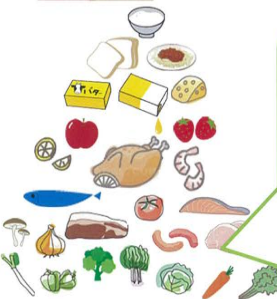
特殊ミルク（ケトン食）を 試してみませんか？

特殊ミルクとは、糖や炭水化物を減らし、脂肪を増やした食べ物のことです。

糖質を制限すると、脳の機能を上げることが明らかになりつつあります。

- 集中力アップ
- 記憶力アップ
- 精神安定 など

糖質オフ



認知症で困ってらっしゃる60歳以上の方を対象に、ケトン食でどれほど改善するかを検討しています。

【連絡先】

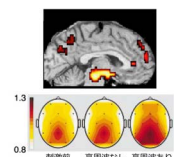
国立精神・神経医療研究センター神経研究所 疾病研究第三部
042-341-2712 内線 5833 担当 太田深秀

「認知症行動・心理症状に対する 音響療法の探素的臨床評価研究」

への参加者紹介のお願い（医師向け）

研究の概要

疾病研究第七部では、人間の可聴域上限を超える音響環境情報が中脳・視床下部・内側前頭前野などの脳深部を活性化し、音の快適性や認知機能などを向上させる効果（ハイパーソニック・エフェクト）を応用した認知症の行動・心理症状（BPSD）に対する新規非薬物療法の開発のための研究に参加して下さる方を募集しています。



BPSD を呈する認知症を対象に、入院中の病室に音響表示装置を設置して、熱帯雨林自然環境音を主体とした人間の可聴域上限をこえる高周波成分を豊富に含む音響情報を表示します。その効果を、BPSD 症状・神経生理学的指標・投与薬剤量の変化、有害事象の発現など複合的に検討し、高周波音響情報を用いた治療の実施可能性・安全性・有効性を評価することが目的です。

組み入れ基準・除外基準

*組み入れ基準：以下のすべての基準を満たす4北病棟への入院患者

- ・DSM-5 で大神経認知障害または小神経認知障害の診断基準を満たす（病因別亜型分類は問わない）55歳以上90歳未満の男女
- ・妄想、幻覚、興奮、うつ、不安、多幸、無感情、脱抑制、易刺激性、異常行動のいずれか一つ以上の行動・心理症状（BPSD）を有する
- ・患者の日常生活について報告することのできる介護者がいる
- ・口頭および書面での、研究への参加意思表示ができる（ただし、認知機能検査（MMSE）のスコア20点未満の患者では、本人および代諾者両方の同意が得られた場合のみ対象とする）

*除外基準

- ・病室内に音響装置を設置することが危険につながる可能性のある患者（自傷・自殺の危険を有する患者、暴力・興奮が激しい患者など）
- ・発達障害・双極性障害の診断を有する、アルコール・薬物乱用の合併症がある患者

上記基準に該当し、研究参加者候補となる患者様がいましたら、下記までご連絡いただけます。担当者が、患者様・ご家族に詳しい説明をいたします。

<研究実施担当者・連絡先>

神経研究所 疾病研究第七部 山下祐一（内線：5174、PHS：5835、yamay@ncnp.go.jp）